



SMTP ルーティングの設定

この章は、次の項で構成されています。

- [SMTP ルートの概要 \(1 ページ\)](#)
- [ローカル ドメインの電子メールのルーティング \(2 ページ\)](#)
- [SMTP ルートの管理 \(3 ページ\)](#)

SMTP ルートの概要

この章では、Cisco コンテンツ セキュリティ管理アプライアンスを通過する電子メールのルーティングおよび配信に影響を与える機能、および [SMTP ルート (SMTP Routes)] ページと `smtproutes` コマンドの使用について説明します。

SMTP ルートを使用すると、特定ドメインのすべての電子メールを別の Mail eXchange (MX; メール交換) ホストへリダイレクトできます。たとえば、`example.com` から `groupware.example.com` へのマッピングを作成できます。このマッピングにより、エンベロップ受信者アドレスに `@example.com` が含まれる電子メールは、代わりに `groupware.example.com` に転送されます。システムは、通常の電子メール配信のように、`groupware.example.com` で「MX」ルックアップを実行し、次にホストで「A」ルックアップを実行します。この代替 MX ホストは、DNS の MX レコードにリストされている必要はなく、電子メールがリダイレクトされているドメインのメンバである必要もありません。オペレーティングシステムでは、最大 10,000 件の SMTP ルートマッピングを Cisco コンテンツ セキュリティ アプライアンスに設定できます ([SMTP ルートの制限 \(4 ページ\)](#) を参照)。

この機能を使用すると、ホストを「ひとかたまりにする」ことができます。`example.com` などの部分ドメインを指定すると、`example.com` で終わるすべてのドメインがエントリに一致します。たとえば、`fred@foo.example.com` と `wilma@bar.example.com` は、両方ともマッピングに一致します。

SMTP ルートテーブルにホストがない場合は、DNS を使用して MX ルックアップが実行されます。結果は、SMTP ルートテーブルに対して再チェックされません。`foo.domain` の DNS MX エントリが `bar.domain` の場合、`foo.domain` に送信されるすべての電子メールが `bar.domain` に配信されます。`bar.domain` から他のホストへのマッピングを作成した場合、`foo.domain` へ送信される電子メールは影響を受けません。

つまり、再帰的なエントリは続きません。a.domain から b.domain にリダイレクトされるエントリがあり、b.domain から a.domain にリダイレクトされるエントリがその後にある場合、メールのループは作成されません。この場合、a.domain に送信される電子メールは、b.domain で指定された MX ホストに配信されます。反対に、b.domain に送信される電子メールは、a.domain で指定された MX ホストに配信されます。

すべての電子メール配信で、SMTP ルートテーブルは、上から順に読み取られます。マッピングと一致する最も具体的なエントリが使用されます。たとえば、SMTP ルートテーブルに host1.example.com と example.com の両方のマッピングがある場合は、host1.example.com の方が具体的なエントリになっているため、こちらが使用されます。具体的でない方の example.com エントリが先にあっても、同じ結果になります。そうでない場合は、エンベロープ受信者のドメインで通常の MX ルックアップが実行されます。

SMTP ルート、メール配信、およびメッセージ分裂

着信：1つのメッセージに10人の受信者がいて、全員が同じ Exchange サーバに属する場合、AsyncOS では TCP 接続を1つ開き、メールストアには10の別々のメッセージではなく、メッセージを1つのみ配置します。

発信：動作は同様ですが、1つのメッセージが10の異なるドメインの10人の受信者に送信される場合、AsyncOS では10のMTAに対する10の接続を開き、それぞれ1つの電子メールを配信します。

分裂：1つの着信メッセージに10人の受信者がいて、全員が別々の着信ポリシーグループ（10グループ）に属する場合、10人の受信者全員が同じ Exchange サーバに属していても、メッセージは分裂されます。つまり、10の別々の電子メールが1つの TCP 接続で配信されます。

SMTP ルートと発信 SMTP 認証

発信 SMTP 認証プロファイルを作成したら、SMTP ルートに適用できます。これにより、ネットワークのエッジにあるメールリレーサーバの背後に Cisco コンテンツセキュリティアプライアンスが位置する場合に、発信メールの認証が可能になります。

ローカルドメインの電子メールのルーティング

セキュリティ管理アプライアンスは、次のメールをルーティングします。

- ISQ によりリリースされた、SMTP ルーティングを無視するメッセージ
- アラート (Alerts)
- 指定した宛先にメールできるコンフィギュレーションファイル
- 定義された受信者にも送信できるサポート要求メッセージ

最後の2種類のメッセージは、宛先への配信に SMTP ルートが使用されます。

Email Security Appliance はローカルドメイン宛てのメールを、[管理アプライアンス (Management Appliance)] > [ネットワーク (Network)] > [SMTP ルート (SMTP Routes)] ページ (または `smtproutes` コマンド) を使用して指定されたホストにルーティングします。この機能は、

sendmail の **mailertable** 機能に似ています。 ([SMTP ルート (SMTP Routes)] ページと **smtproutes** コマンドは、AsyncOS 2.0 ドメイン リダイレクト機能を拡張したものです)。



(注) GUI のシステム設定ウィザードを完了し、変更を保存した場合、その時点で入力した各 RAT エントリに対してアプライアンス上の最初の SMTP ルート エントリを定義します。

デフォルトの SMTP ルート

特殊なキーワード ALL を使用して、デフォルトの SMTP ルートを定義することもできます。ドメインが SMTP ルート リストで前のマッピングと一致しない場合のデフォルトは、ALL エントリで指定された MX ホストにリダイレクトされます。

SMTP ルート エントリを印刷する場合、デフォルトの SMTP ルートは ALL: として一覧表示されます。デフォルトの SMTP ルートは削除できません。入力した値をクリアすることのみ可能です。

[管理アプライアンス (Management Appliance)] > [ネットワーク (Network)] > [SMTP ルート (SMTP Routes)] ページを使用するか、または **smtproutes** コマンドを使用して、デフォルトの SMTP ルートを設定します。

SMTP ルートの管理

- [SMTP ルートの定義 \(3 ページ\)](#)
- [SMTP ルートの制限 \(4 ページ\)](#)
- [SMTP ルートの追加 \(4 ページ\)](#)
- [SMTP ルートのエクスポート \(4 ページ\)](#)
- [SMTP ルートのインポート \(4 ページ\)](#)
- [SMTP ルートと DNS \(5 ページ\)](#)

SMTP ルートの定義

Email Security Appliance はローカルドメイン宛てのメールを、[管理アプライアンス (Management Appliance)] > [ネットワーク (Network)] > [SMTP ルート (SMTP Routes)] ページ (または **smtproutes** コマンド) を使用して指定されたホストにルーティングします。この機能は、sendmail の mailer table 機能に似ています。 ([SMTP ルート (SMTP Routes)] ページと **smtproutes** コマンドは、AsyncOS 2.0 ドメイン リダイレクト機能を拡張したものです)。

[管理アプライアンス (Management Appliance)] > [ネットワーク (Network)] > [SMTP ルート (SMTP Routes)] ページ (または **smtproutes** コマンド) を使用してルートを作成します。新しいルートを作成するには、まず、永続的なルートを作成するドメインまたはドメインの一部を指定する必要があります。次に、宛先ホストを指定します。宛先ホストは、完全修飾ホスト名または IP アドレスで入力できます。特殊な宛先ホスト /dev/null を指定して、エントリに一致するメッセージを廃棄することもできます。(つまり、デフォルトルートに /dev/null を指

定することで、アプライアンスで受信されたメールが配信されないようにすることができます)。

複数の宛先ホスト エントリに、完全修飾ホスト名と IP アドレスの両方を含めることができます。複数のエントリを指定する場合は、カンマで区切ります。

1 つまたは複数のホストが応答しない場合、メッセージは到達可能なホストの 1 つに配信されます。設定されたすべてのホストが応答しない場合、メールはそのホストのキューに格納されます (MX レコードの使用にフェールオーバーしません)。

SMTP ルートの制限

最大 10,000 ルートまで定義できます。ALL による最終的なデフォルト ルートは、この制限に含まれます。したがって、定義できるのは最大 9,999 のカスタム ルートと、特殊キーワード ALL を使用する 1 つのルートです。

SMTP ルートの追加

- ステップ 1 [管理アプライアンス (Management Appliance)] > [ネットワーク (Network)] > [SMTP ルート (SMTP Routes)] を選択します。
- ステップ 2 [ルートを追加 (Add Route)] をクリックします。
- ステップ 3 受信側ドメインと宛先ホストを入力します。複数の宛先ホストを追加するには、[行の追加 (Add Row)] をクリックし、新しい行に次の宛先ホストを入力します。
- ステップ 4 ポート番号を指定するには、宛先ホストに「:<port number>」を追加します (例: example.com:25)
- ステップ 5 変更を送信し、保存します。

SMTP ルートのエクスポート

Host Access Table (HAT) および Recipient Access Table (RAT) の場合と同様に、ファイルをエクスポートおよびインポートして SMTP ルート マッピングを変更することもできます。

- ステップ 1 [SMTP ルート (SMTP Routes)] ページの [SMTP ルートをエクスポート (Export SMTP Routes)] をクリックします。
- ステップ 2 ファイルの名前を入力し、[送信 (Submit)] をクリックします。

SMTP ルートのインポート

Host Access Table (HAT) および Recipient Access Table (RAT) の場合と同様に、ファイルをエクスポートおよびインポートして SMTP ルート マッピングを変更することもできます。

- ステップ 1** [SMTPルート (SMTP Routes)]ページの[SMTPルートをインポート (Import SMTP Routes)]をクリックします。
- ステップ 2** エクスポートした SMTP ルートを含むファイルを選択します。
- ステップ 3** [送信 (Submit)]をクリックします。インポートによって既存の SMTP ルートがすべて置き換えられることが警告されます。テキストファイル内のすべての SMTP ルートがインポートされます。
- ステップ 4** [インポート (Import)]をクリックします。

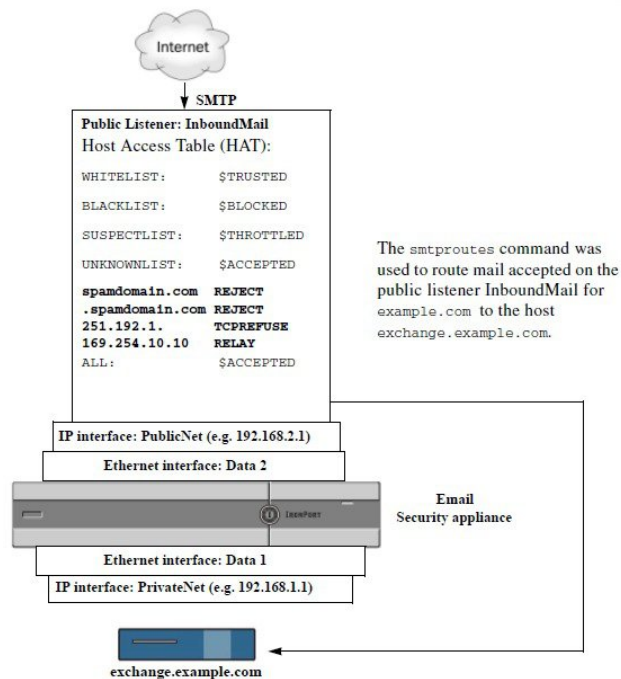
ファイル内に「コメント」を配置できます。文字「#」で始まる行はコメントと見なされ、AsyncOSによって無視されます。次に例を示します。

```
# this is a comment, but the next line is not
```

```
ALL:
```

この時点で、電子メールゲートウェイの設定は次のようになります。

図 1: Eメールゲートウェイの設定



SMTP ルートと DNS

特殊なキーワード **USEDNS** を使用すると、特定ドメインの次のホップを決定する MX ルックアップがアプライアンスで実行されます。これは、サブドメイン宛のメールを特定ホストへルーティングする必要があるときに便利です。たとえば、**example.com** へのメールが企業の Exchange サーバに送信されるようにする場合、SMTP ルートは次のようになります。

```
example.com exchange.example.com
```

ただし、さまざまなサブドメイン（foo.example.com）宛のメールの場合は、次のような SMTP ルートを追加します。

```
.example.com USEDNS
```